





2024年3月期 決算説明資料

2024年5月14日

上場市場：東証スタンダード市場
証券コード：9083



 2024年3月期 決算概要

 2025年3月期 業績予想

 株主還元



2024年3月期 決算概要

2024年3月期は、5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが「第5類感染症」に移行されたことにより経済活動が回復傾向へ推移したこと、および中期経営計画の基本方針「利益水準の回復と事業構造改革」に基づき、各事業において収益基盤強化に取り組んだ結果、前年同期比で増収・増益となった。

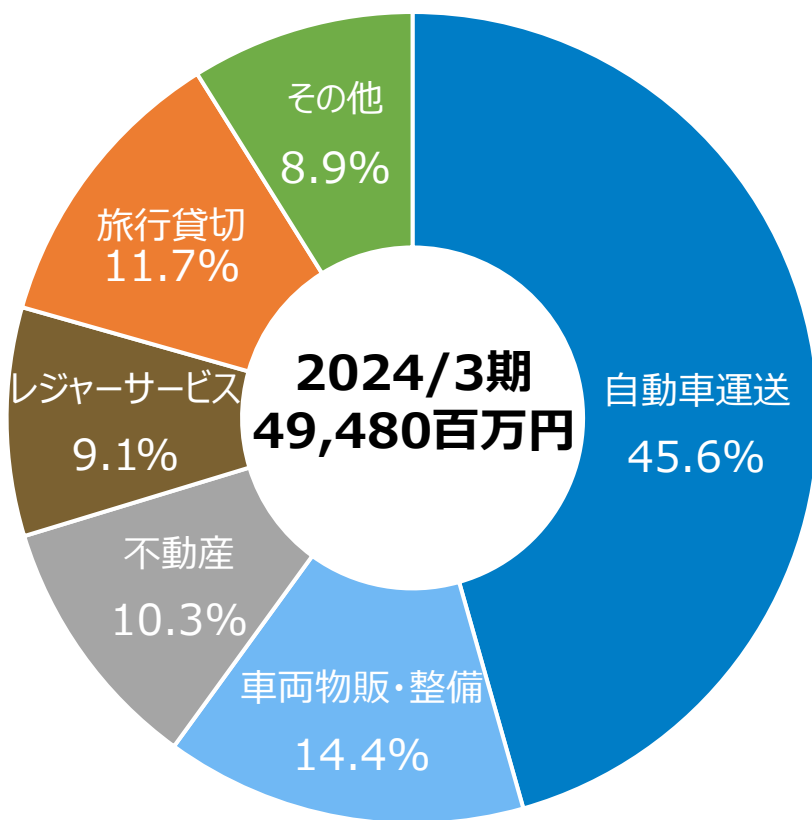
自動車運送 (乗合バス事業)	<ul style="list-style-type: none">・路線バスは、利用者数(ICカード利用実績)が前年同期比+6.0%・高速バスは、淡路島線における他社との共同運行拡大や、関西国際空港線の再開などにより、輸送人員が前年同期比+8.0%・2023年12月に実施した一般路線バスの運賃改定が寄与・従業員の処遇改善による人件費は前年同期比+4.4%
不動産	<ul style="list-style-type: none">・賃貸は、新規取得物件による賃貸料が増加・住宅は、注文住宅の引き渡し増により売上が増加・建設は、大規模案件の竣工により売上が増加
旅行貸切	<ul style="list-style-type: none">・募集型企画旅行(自社ツアー)は、暖冬によるスキー・カニツアーの不調はあったが、訪日外国人向けツアー(京都・東京)が大きく回復し、売上が増加・貸切バスは、会社団体の受注回復や公示運賃の改正により運送収入(運賃・料金)が増加

(百万円)	2024年3月期 実績	2023年3月期 実績	前年同期比		2024/3期 業績予想 (2023/11/10公表)	
			増減額	増減率	予想値	増減額
売上高	49,480	44,820	+4,660	+10.4%	49,100	+380
営業利益	3,145	2,362	+782	+33.1%	2,650	+495
経常利益	3,283	2,622	+660	+25.2%	2,770	+513
売上高経常利益率	6.6%	5.9%	+0.8pt	+13.4%	5.6%	+1.0pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,251	1,766	+485	+27.5%	1,760	+491
1株当たり当期純利益	373.72円	293.30円	+80.42円	+27.4%	292.20円	+81.52円

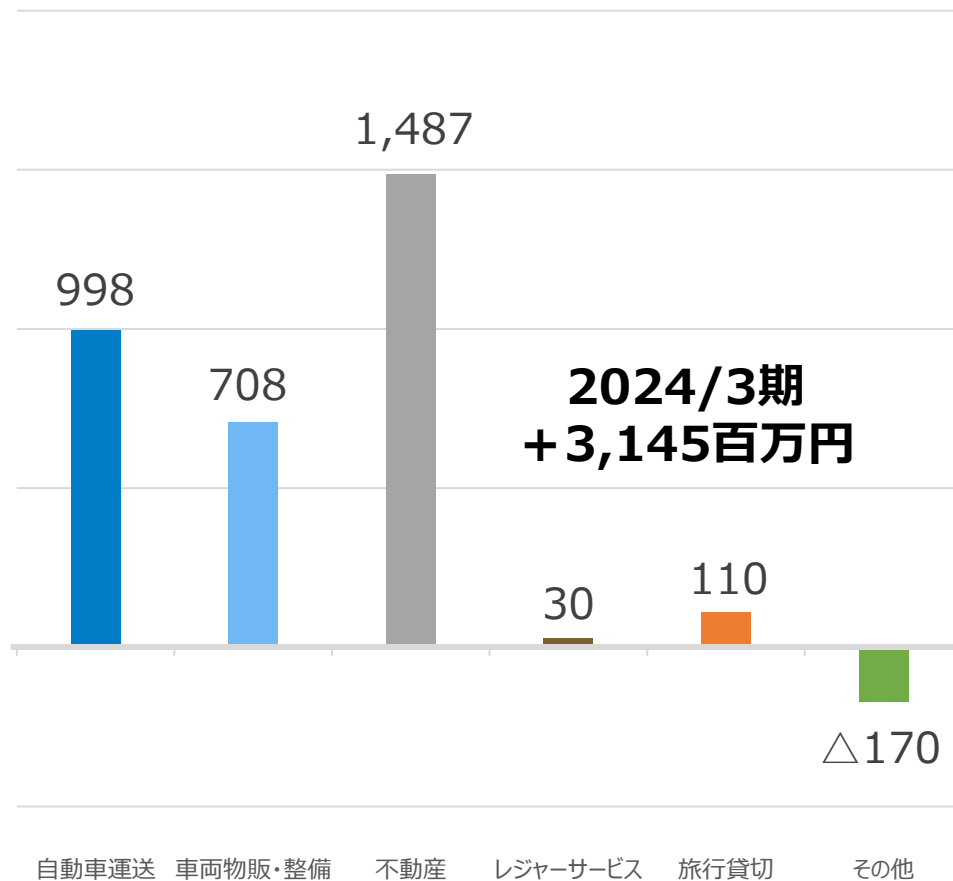
業績（セグメント別）

(百万円)	2024年3月期 実績	2023年3月期 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	49,480	44,820	+4,660	+10.4%
自動車運送	22,558	21,202	+1,355	+6.4%
車両物販・整備	7,110	6,827	+282	+4.1%
不動産	5,098	4,547	+550	+12.1%
レジャーサービス	4,487	4,028	+459	+11.4%
旅行貸切	5,772	4,432	+1,340	+30.2%
その他	4,453	3,782	+671	+17.8%
営業利益	3,145	2,362	+782	+33.1%
自動車運送	998	630	+367	+58.4%
車両物販・整備	708	582	+125	+21.5%
不動産	1,487	1,305	+182	+14.0%
レジャーサービス	30	△44	+74	-
旅行貸切	110	20	+89	+435.4%
その他	△170	△134	△35	-
(セグメント間取引消去)	△18	2	△21	-

売上高構成比 (単位：%)

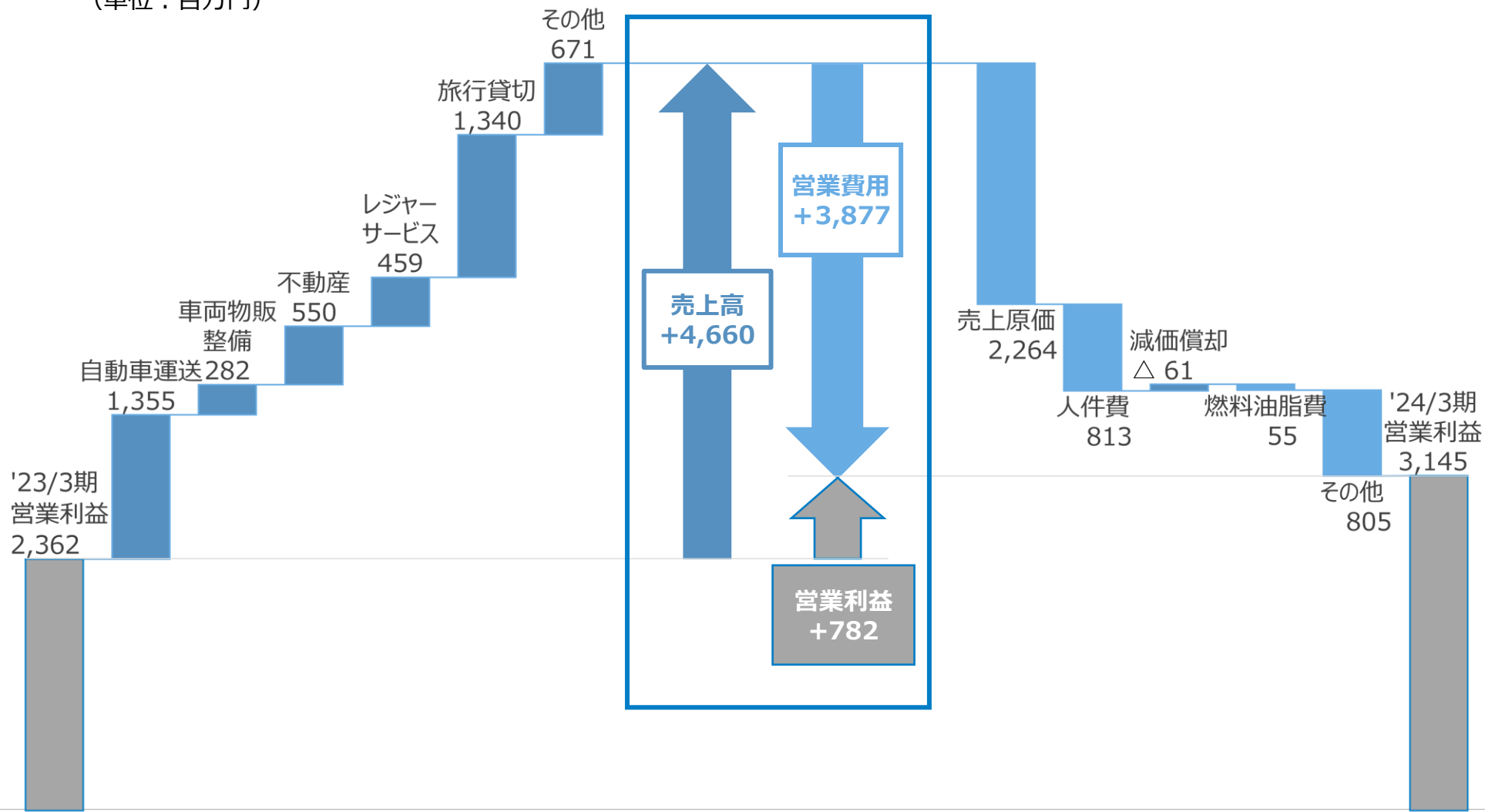


営業利益 (単位：百万円)



営業利益 増減要因

(単位：百万円)



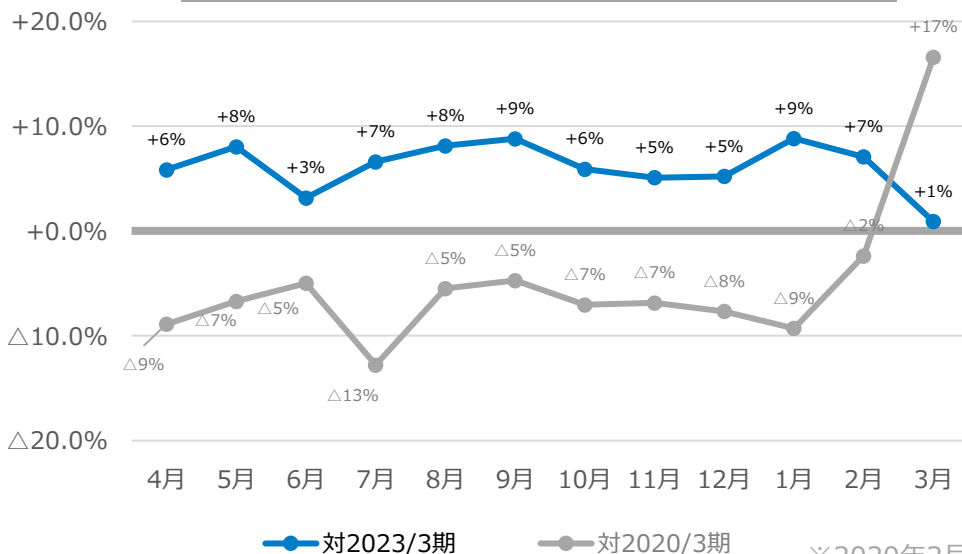
セグメント概要（自動車運送）

■ 路線バスでは、需要の回復に加えて、三田～大阪・新大阪線の更なる増便、12月からの運賃改定などにより増収

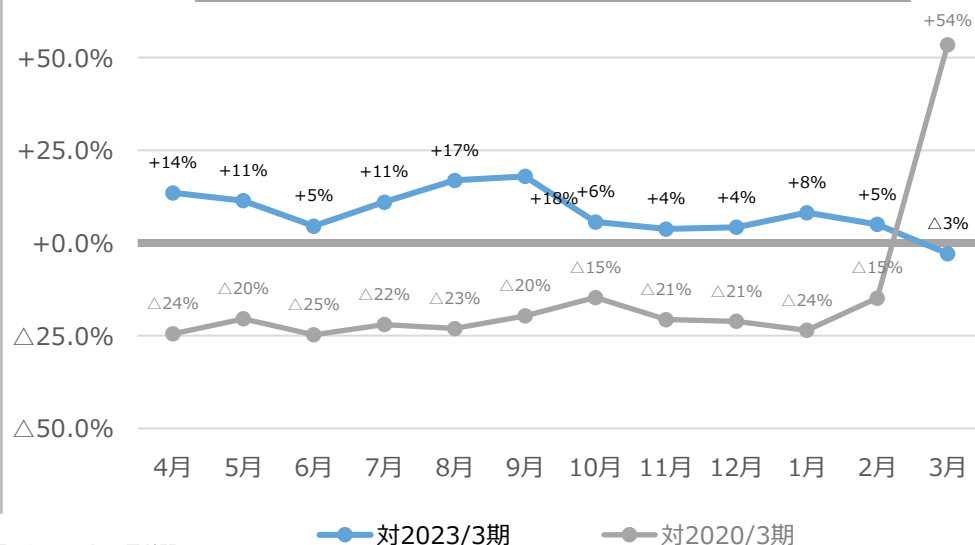
■ 高速バスでも、需要の回復に加えて、淡路島線において他社との共同運行を拡大した効果や、関西国際空港線の運行再開（2023年12月～）などにより増収

(百万円)	2024/3期			2023/3期			前年同期比	
	上期	下期	計	上期	下期	計	増減額	増減率
売上高	9,845	12,713	22,558	9,337	11,865	21,202	+1,356	+6.4%
営業利益	△662	1,660	998	△757	1,387	630	+368	+58.4%

路線バス ICカード利用人員対比
(対 2023/3期・2020/3期)



高速バス 利用人員対比
(対 2023/3期・2020/3期)



※2020年2月頃よりコロナの影響

セグメント概要（車両物販・整備）

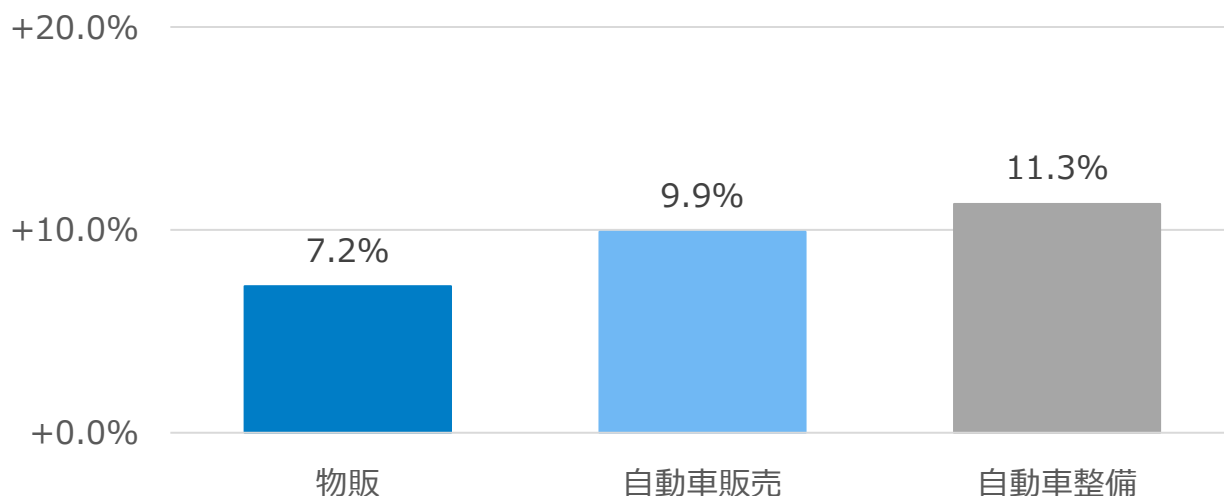
■ 車両物販は、自動車整備の新規顧客開拓により、補修用部品の販売増により増収

■ 自動車販売は、販売台数が増加（前年同期比+6.5%）し、増収

■ 自動車整備は、車検台数の増加(同+4.6%)、高額な修理や車体改造の受注が増加し、増収

(百万円)	2024/3期			2023/3期			前年同期比	
	上期	下期	計	上期	下期	計	増減額	増減率
売上高	3,476	3,634	7,110	3,277	3,550	6,827	+283	+4.1%
営業利益	285	423	708	240	342	582	+126	+21.6%

部門別売上高 前年同期比較



■ 賃貸は、姫路市サ高住施設の竣工と赤穂市商業施設用地の取得などが寄与し、賃料が前年同期比+5.4%と増収

■ 住宅販売は、注文住宅売上（前年同期比+32.2%）、建売住宅売上（同+81.4%）、土地区画売上（同+25.3%）がそれぞれプラスとなり増収

■ 建設は、保育園やドラッグストアなどの竣工により売上が前年同期比+20.1%と増収

(百万円)	2024/3期			2023/3期			前年同期比	
	上期	下期	計	上期	下期	計	増減額	増減率
売上高	2,096	3,002	5,098	1,842	2,705	4,547	+551	+12.1%
営業利益	640	847	1,487	587	718	1,305	+182	+14.0%



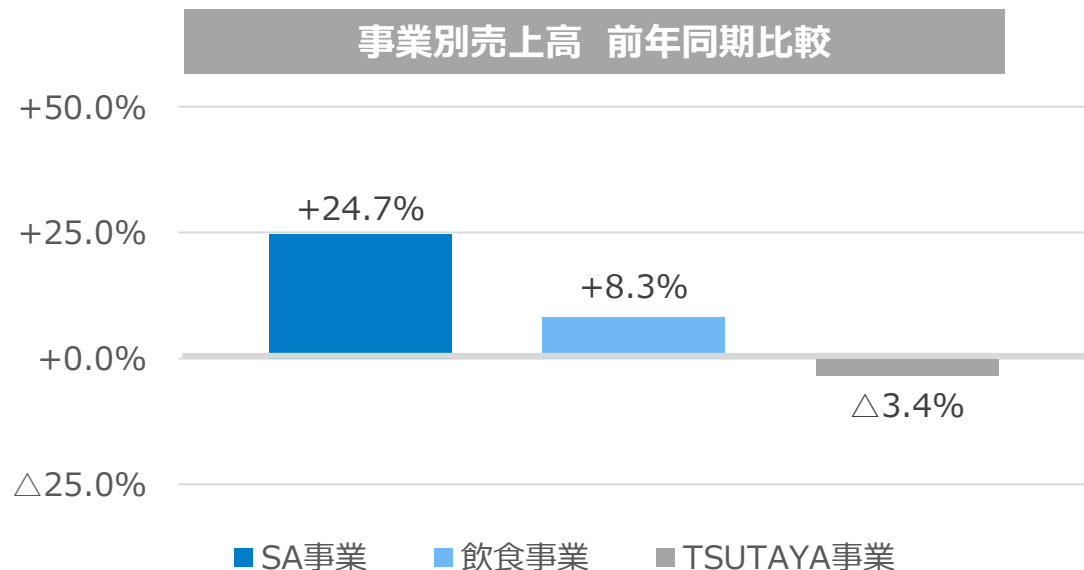
セグメント概要（レジャーサービス）

サービスエリアは、前期にあった中国道（吹田JCT～中国池田IC間）リニューアル工事の反動、GWやお盆などのハイシーズンを中心に来店客数が前年同期比+18.2%となり増収

飲食店は、外食消費の回復基調による既存店の売上増(前年同期比+4.5%)や新業態(2店舗)のオープンにより増収

TSUTAYA(FC)は、文具等の拡大やトレカ販売を開始したが、レンタルが影響し、減収

(百万円)	2024/3期			2023/3期			前年同期比	
	上期	下期	計	上期	下期	計	増減額	増減率
売上高	2,250	2,237	4,487	1,986	2,042	4,028	+459	+11.4%
営業利益	27	3	30	△30	△14	△44	+74	-



セグメント概要（旅行貸切）

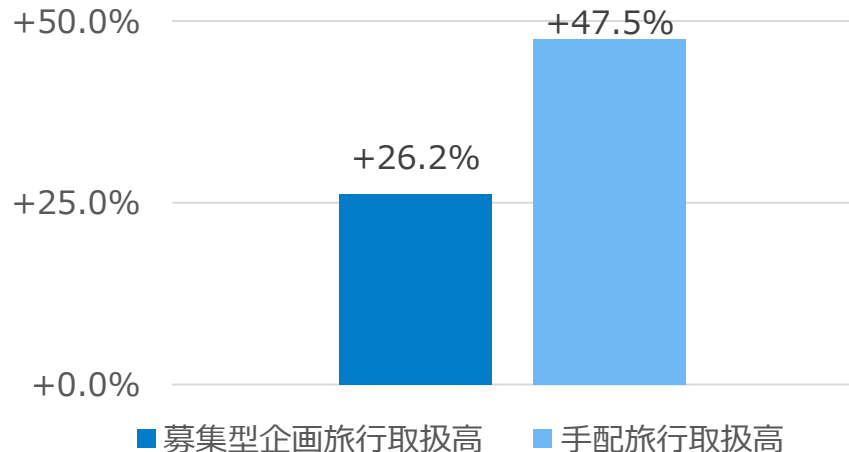
旅行は、募集型企画旅行において4年ぶりに開催したチャータークルーズやインバウンド日帰りツアーが寄与し、増収。また、手配旅行も会社団体などが回復し、増収

貸切バスは、乗務員不足により稼働数は前年同期比マイナスとなったが、※公示運賃の改正による日車収入の上昇が運送収入の増加（前年同期比+4.5%）に寄与

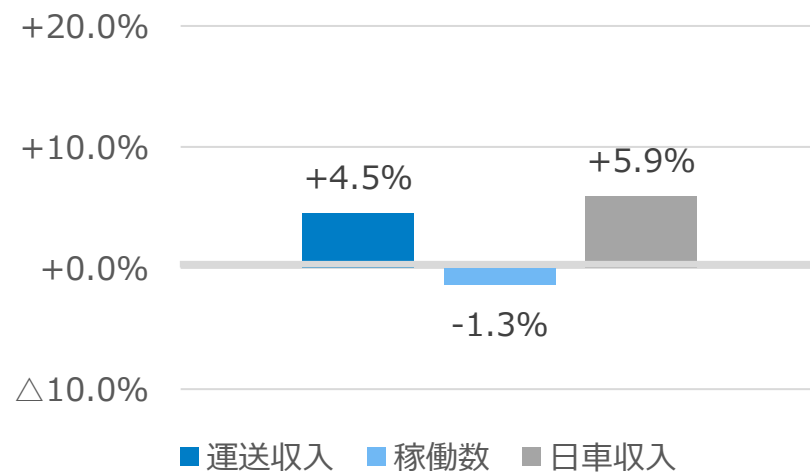
※公示運賃…貸切バスの時間・キロ当たりの運賃や各種料金を定めたもの

(百万円)	2024/3期			2023/3期			前年同期比	
	上期	下期	計	上期	下期	計	増減額	増減率
売上高	2,441	3,331	5,772	1,733	2,699	4,432	+1,340	+30.2%
営業利益	△28	138	110	△144	164	20	+90	+450.0%

旅行取扱高 前年同期比較



貸切バス稼働 前年同期比較

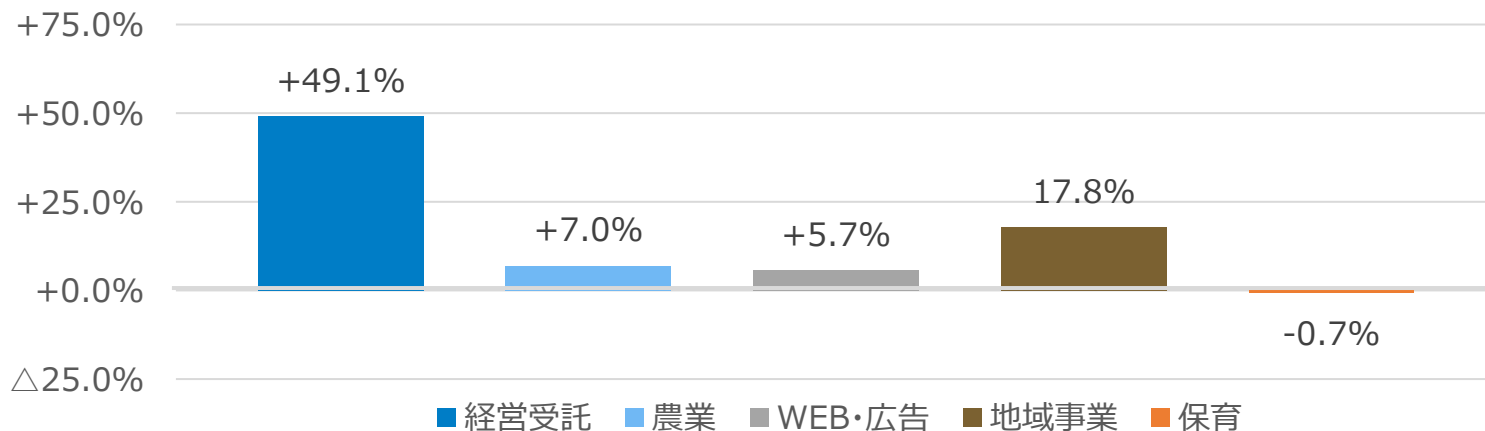


セグメント概要（その他）

- 経営受託（公共施設管理）は、姫路・明石・三木・三田などで新規受託した9施設の管理料・自主事業収入が寄与したことや、書写山ロープウェイの利用者増などにより増収
- 農業（販売・卸し）は、小売店「バスの八百屋」を新たに2店舗出店（計5店舗）、また集荷場事業では、一部天候の影響はあったものの、販売率が上昇し増収
- 一方、新規受託施設の初期運営費用や、バスの八百屋新規出店費用を計上したことなどによる費用増もあり、営業損失は拡大

(百万円)	2024/3期			2023/3期			前年同期比	
	上期	下期	計	上期	下期	計	増減額	増減率
売上高	2,147	2,306	4,453	1,825	1,957	3,782	+671	+17.7%
営業利益	△106	△64	△170	△104	△30	△134	△36	-

主なその他事業別売上高 前年同期比較



連結貸借対照表

(単位：百万円)	2023年3月末	2024年3月末	増減額	主な要因
流動資産	16,789	13,446	△3,343	
現預金	9,973	5,966	△4,006	収益物件取得による減
売掛金	5,160	5,659	+499	
その他	1,655	1,819	+164	
固定資産	43,838	49,624	+5,786	
有形固定資産	36,218	41,144	+4,926	収益物件取得による増
その他	7,619	8,480	+860	
資産合計	60,627	63,070	+2,443	
負債	15,720	15,678	△41	
有利子負債	3,011	2,333	△677	借入金返済による減
未払金	2,689	3,199	+510	
その他	10,019	10,145	+126	リース債務の増
純資産	44,907	47,392	+2,484	
負債純資産計	60,627	63,070	+2,443	
※Net Cash	6,962	3,632	△3,329	

※Net Cash=期末現預金－期末有利子負債残高

自己資本比率75.1%

連結キャッシュ・フローの推移

営業CFは、税金等調整前当期純利益の増加により、通期として前年同期比プラス

投資CFは、賃貸用事業用地など有形固定資産購入の支出によるもの

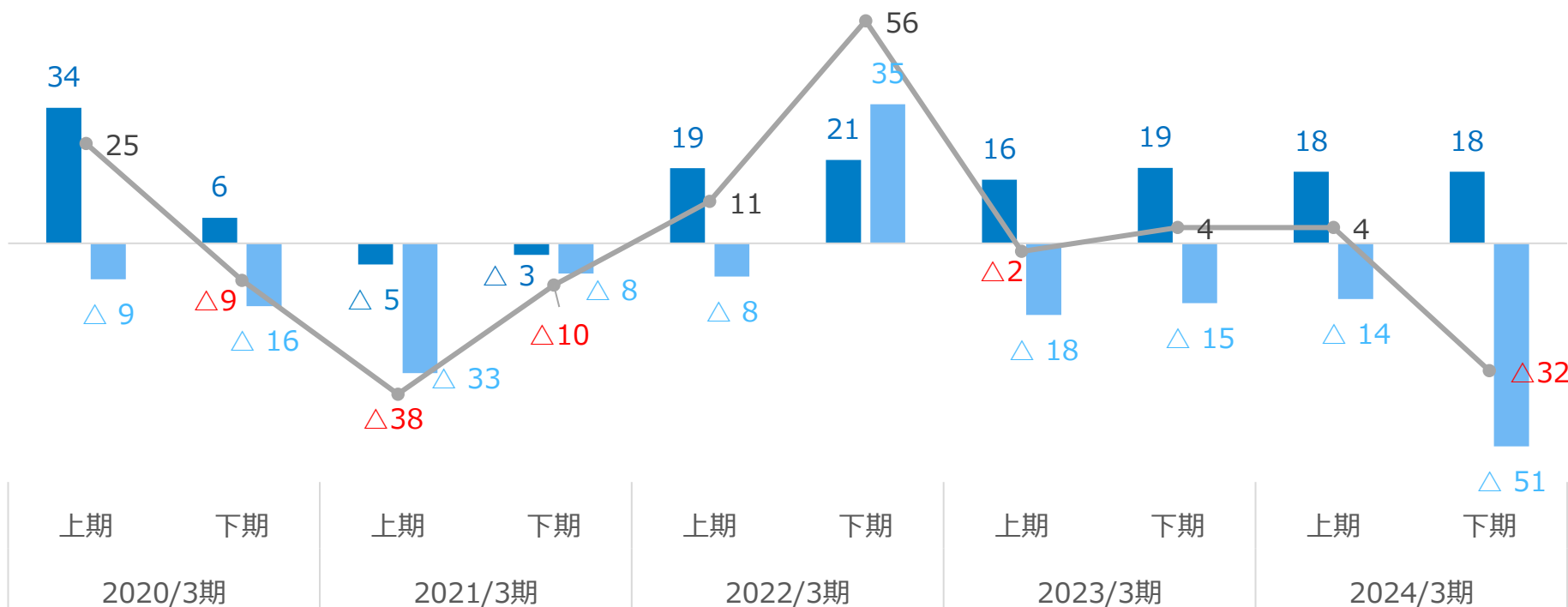
キャッシュフロー推移

(単位：億円)

■ 営業キャッシュフロー

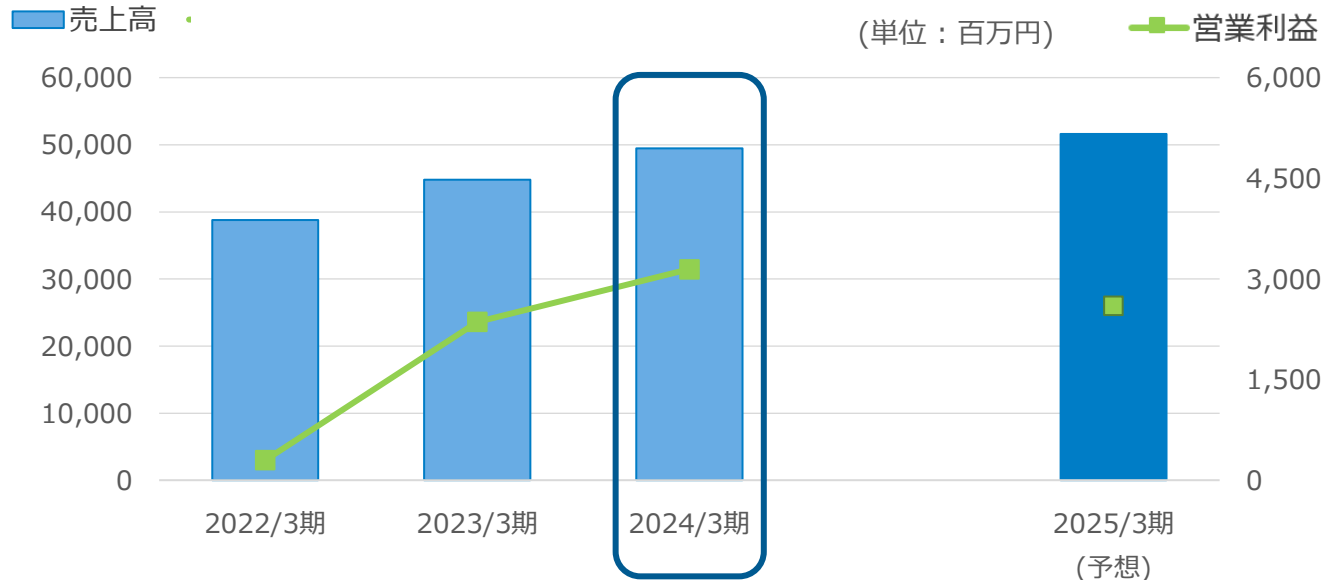
■ 投資キャッシュフロー

● FCF



*FCF=営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー

中期経営計画（数値計画）との比較



2024年度目標
 コロナ禍前と同水準の
 利益規模へ回復

売上高 480億円
営業利益 24億円



目標は達成するも、事業環境の先行きは不透明な状況が続くと予想。よって、2024年度も中期経営計画に沿った様々な取り組みを引き続き実施。

(単位：百万円)

	2022/3期 実績	2023/3期 実績	2024/3期 実績
売上高	38,814	44,820	49,480
営業利益	300	2,362	3,145
経常利益	1,079	2,622	3,283
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,137	1,766	2,251
経常利益率	2.8%	5.9%	6.6%



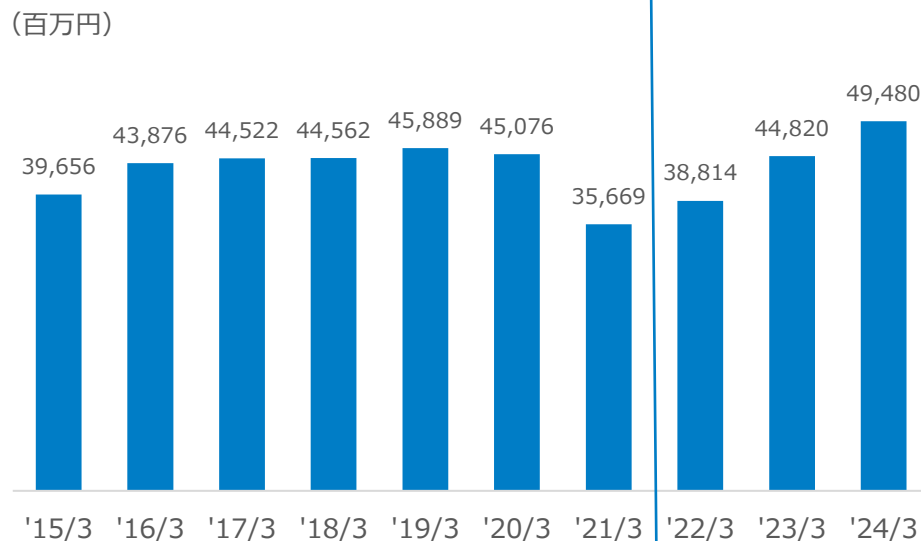
	2025/3期 目標	2025/3期予想 (5/14発表)	目標との 増減額
売上高	48,000	51,600	+3,600
営業利益	2,400	2,600	+200
経常利益	2,500	2,740	+240
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,700	1,800	+100
経常利益率	5.2%	5.3%	+0.1pt

売上高では、各事業において収益基盤強化に取り組んだ結果、コロナ禍前超え※を達成

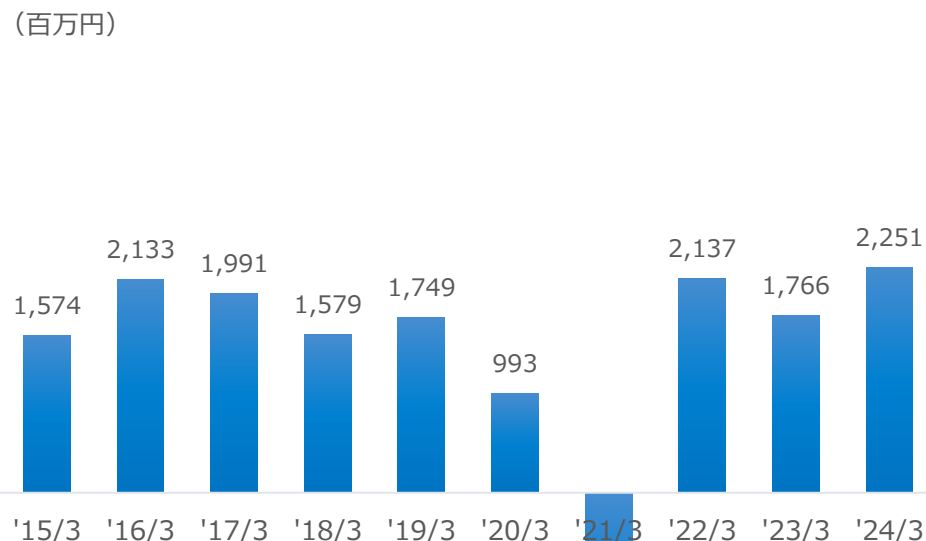
(※「収益認識に関する会計基準」組替え前との比較)

利益では、売上高の増加に加え、バス車両などの設備更新の抑制により増益

売上高



親会社株主に帰属する当期純利益



「収益認識に関する会計基準」を適用
 '21/3期以前は、新たな表示方法による組替えを行っていない。

△2,167

財務ハイライト（連結経営指標の推移）

決算年月	単位	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
売上高	(百万円)	45,076	35,669	38,814	44,820	49,480
経常損益	(百万円)	2,224	△1,314	1,079	2,622	3,283
当期純損益（親会社株主に帰属する）	(百万円)	993	△2,167	2,137	1,766	2,251
包括損益（親会社株主に帰属する）	(百万円)	455	△1,983	2,123	2,102	2,682
資本金	(百万円)	3,140	3,140	3,140	3,140	3,140
発行済株式総数	(千株)	6,172	6,172	6,172	6,172	6,172
純資産額	(百万円)	43,161	41,071	42,999	44,907	47,392
総資産額	(百万円)	56,287	57,142	58,944	60,627	63,070
1株当たり純資産額	(円)	7,162.92	6,816.37	7,137.87	7,458.61	7,865.57
1株当たり配当額	(円)	35.00	17.50	35.00	40.00	40.00
1株当たり当期純損益額	(円)	164.99	△359.94	354.90	293.30	373.72
自己資本比率	(%)	76.63	71.83	72.92	74.07	75.14
自己資本利益率	(%)	2.31	-	5.09	4.02	4.88
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	4,059	△815	3,949	3,497	3,664
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△2,473	△4,022	2,632	△3,315	△ 6,469
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△555	3,409	△1,429	△1,364	△ 1,230
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	7,244	5,815	10,968	9,953	5,946
従業員数 [外、平均臨時雇用者数]	(人)	3,293 [1,758]	3,158 [1,569]	3,040 [1,575]	3,271 [1,653]	3,395 [1,861]



2025年3月期 業績予想

売上高では、レジャーサービス・旅行貸切を中心に更なる需要喚起に取り組むことで、増収を見込む

営業利益では、処遇改善や人材確保による人件費の増加、抑制していた車両更新の増加などで減益を見込む

中期経営計画（2022～2024年度）の最終年として、基本方針に則り、重点戦略を推し進める

(百万円)	2025年3月期 業績予想	2024年3月期 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	51,600	49,480	+2,120	+4.3%
営業利益	2,600	3,145	△545	△17.3%
経常利益	2,740	3,283	△543	△16.5%
売上高経常利益率	5.3%	6.6%	△1.3pt	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,800	2,251	△451	△20.0%
1株当たり当期純利益	298.78円	373.72円	△74.94円	△20.0%

2025年3月期 業績予想（セグメント別）

(百万円)	2025年3月期 予想	2024年3月期 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	51,600	49,480	+2,120	+4.3%
自動車運送	23,005	22,773	+232	+1.0%
車両物販・整備	10,005	9,508	+497	+5.2%
不動産	6,438	6,027	+411	+6.8%
レジャーサービス	4,807	4,487	+320	+7.1%
旅行貸切	7,033	5,885	+1,148	+19.5%
その他	5,005	4,530	+475	+10.5%
(調整額)	△4,693	△3,733	△960	—
営業利益	2,600	3,145	△545	△17.3%
自動車運送	642	998	△356	△35.7%
車両物販・整備	735	708	+27	+3.8%
不動産	1,279	1,487	△208	△14.0%
レジャーサービス	△18	30	△48	—
旅行貸切	142	110	+32	+29.1%
その他	△101	△170	+69	—
(調整額)	△79	△18	△61	—

※売上高及び営業利益（損失）は、セグメント間の内部又は振替高控除前の金額

基本方針

利益水準の回復と事業構造改革

グループ構想2030に向けて、コロナ禍前と同水準の利益規模への回復を目指すとともに、まちづくり・地域づくり企業へ転換するため、事業構造の改革を実行する

重点戦略

- 1 神戸エリアでの路線拡充、観光周遊バスの充実をはじめとする事業拡大
- 2 中山間地での地域に適した交通体系への転換と地域密着サービスの提供によるサステナブルな事業モデル確立
- 3 不動産事業の拡大
- 4 ノンコア、かつ不採算事業はグループ内再編による効率化・収益力強化、または売却・撤退
- 5 未来への成長投資の実行（人材、環境、デジタル分野）

自動車運送



- 路線バス
運賃改定などの増収効果。
- 高速バス
閑空リムジン増便などの増収効果。
- 費用
従業員処遇改善、バス車両購入などによる費用増。

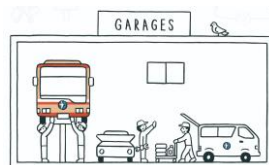


不動産

2024/3期中の物件取得および2024年4月竣工の学生マンションによる賃料増と、建物管理の受注増。
原材料の高騰および賃貸物件の解約処理により費用増。

旅行貸切

募集型企画旅行・手配旅行とも需要の回復が継続すると想定。インバウンド需要も更なる獲得を見込む。
瀬戸内周遊ツアーを4月から開始。



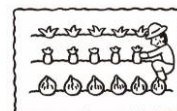
車両物販・整備

車両部品や整備価格の値上げ、新車を含めた自動車販売の強化により売上が増加。



レジャーサービス

飲食の新形態店舗のうち、2024/3期出店分の売上寄与と新規出店に費用計上。
TSUTAYAは、レンタル減収分の収益確保策としてトレカ販売・ネイルを強化。
2024年12月淡路島北淡震災記念公園内施設の運営開始。初期投資を計上。



その他

経営受託の新規受託分、農業の小売店舗出店分、ECサイトでの体験プランなど増収を見込む。
一方で、各出店費用や賃料、周知に向けた広告料などの費用増。





株主還元

■ 期末配当は当初予想の1株当たり17.50円から5円増配した22.50円とし、年間では1株当たり40.00円を配当

■ 2025年3月期は、当社の配当政策の基本方針に基づき、年間40.00円の配当を予定

配当状況

(円)	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	前期差異
1株当たり当期純利益	164.99	△359.94	354.90	293.30	373.72	+80.42
1株当たり配当金	35.00	17.50	35.00	※ ¹ 40.00	40.00	±0.00
配当性向	21.2%	—	9.9%	13.6%	10.7%	△2.9pt

※15円の創立95周年記念配当を含む

配当予想

(円)	2024/3期	2025/3期 (予想)	前期差異
1株当たり当期純利益	373.72	298.78	△74.94
1株当たり配当金	40.00	40.00	±0.00
配当性向	10.7%	13.4%	+2.7pt

< 免責事項 >

当資料に記載されている内容のうち、過去の事実以外のものは、いくつかの前提に基づいた見通しであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
総務部 秘書広報課
079-223-1241 (代表)
ir@shinkibus.co.jp